津波 ハザードMAP

2022年保存版

洞爺湖町役場
〒049-5692
北海道虻田郡洞爺湖町栄町58番地
TEL:0142-76-2121(代表)
https://www.town.toyako.hokkaido.jp/

津波時の避難先

わが家の避難先メモ　～いざという時に、どこに避難すればいいのかをメモしておきましょう

避難経路	1次避難先	2次避難先	家族が離れたときの集合場所

避難対象地域別の避難先

避難対象地域	避難経路	1次避難先	2次避難先
虻田1区	虻田神社前踏切	清水集会所 虻田小学校	虻田小学校 洞爺湖文化センター
虻田2区	虻田神社前踏切 又は洞爺駅跨線橋		
虻田3区	洞爺駅跨線橋		
青葉1区	—		
虻田4区	道道洞爺虻田線 （ドラッグストア横）	地域交流センター	虻田高校
虻田5区	—		
虻田6区	—	母と子の館	高砂集会所 コスモス団地集会所 母と子の館 洞爺湖温泉小学校 入江4区集会所
虻田7区	道道洞爺虻田線 又は母と子の館下踏切		
虻田8区	母と子の館下踏切 又は入江跨線橋		
入江4区	—		
入江1区	・加藤建設前踏切 ・入江跨線橋	入江集会所 虻田中学校 道の駅あぶた	入江集会所 虻田中学校 洞爺湖文化センター
入江3区			

※避難時は、原則、徒歩での避難とするが、何らかの事情により自家用車で避難しなければならない場合は、徒歩以外での避難も可能。

地震の心得

地震の対策

家具類の転倒・落下・移動防止の対策をしましょう

タンス・本棚
L字金具や支え棒などで固定しましょう。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておきましょう。

食器棚
L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷きましょう。
重い食器は下に、軽い食器は上の方に置き、扉が開かないように止め金具をつけましょう。

テレビ・パソコン
転倒防止バンドなどでテレビ台とテレビを固定したり、粘着パッドをテレビの足に貼り付けて固定しましょう。

照明
チェーンと金具を使って数カ所止めます。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておきましょう。

ピアノ
本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定しましょう。脚にはすべり止めをつけましょう。

安全な家具の配置を考慮し、安全な空間を作りましょう

安全に避難するため、廊下や部屋の出入口付近などの避難の妨げになるような場所や火気の周辺には、大型の家具や家電など倒れやすいものを置かないようにし、けがの防止や避難に支障のないような家具の配置にしましょう。また、玄関にいろいろものを置くと、いざというときに出入り口をふさいでしまうため、整理整頓を心がけましょう。
可能であれば、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて、家の中に逃げ場としての安全な空間を作りましょう。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えしましょう。

寝室や子供・お年寄りのいる部屋には家具を置かない！
就寝中に地震に襲われると危険です。子供やお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性があります。どうしても置く場合は、寝ているところに家具が倒れてこないように配置に注意しましょう。

地震が起きたら取るべき行動

地震発生 → **身の安全の確保** → **揺れがおさまったら 火の始末・出口の確保** → **わが家の安全確認・避難の準備**

身の安全の確保
強い揺れを感じたら、まずは自分の身を安全に守るように心がけましょう。
現在は震度５弱以上の揺れを感知すると、自動的にガスが止まるようになっているため、慌ててコンロの火を止める必要はありません。大きな揺れの中、無理に消そうとするのはやけどをするおそれがあり大変危険です。

揺れがおさまったら 火の始末・出口の確保
揺れがおさまったら、火の始末を行いましょう。必ず消火器を備え、すぐに使用できるところに置いておきましょう。
消火器の使用方法は、日頃から確認しておきましょう。
また余震に備え、ドアを開けるなど出口を確保しましょう。

わが家の安全確認・避難の準備
家族や隣近所の安全を確認しましょう。
余震で被害拡大のおそれがある場合はすぐに避難を開始しましょう。
避難する場合には、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めてから避難しましょう。外出中の家族のために避難先や安否情報を書いたメモを残すことも大切です。

！津波浸水想定区域内に自宅などがある場合
強い揺れや、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら、**「すぐに避難」**を心がけてください。**津波が来るおそれがありますので**、揺れがおさまったら電気のブレーカーを落としてすぐに避難を開始しましょう。
テレビやラジオの情報を待っていると逃げ遅れることがありますので、**避難しながら情報を確認しましょう。**

緊急連絡先

防災機関などの連絡先（市外局番 0142）

警察 110番	伊達警察署 伊達警察署 虻田交番	22-0110 76-2110	洞爺湖町役場	76-2121 【洞爺湖町ホームページ】 https://www.town.toyako.hokkaido.jp/
火事・救急車 119番	西胆振行政事務組合 伊達消防署洞爺湖支署	76-2119	病院	洞爺協会病院 74-2555 石田内科胃腸科 76-3838 峠村内科クリニック 76-1515 ひじり在宅クリニック 76-4838 洞爺ファミリークリニック 76-3239

※停電、電柱・電線などの設備に関する問合せ
北海道電力ネットワークセンター　室蘭支店　0120-06-0813

家族のメモ／親戚・知人の連絡先

家族の名前	生年月日	血液型	持病・常用薬 アレルギーなど	会社・学校または携帯電話番号等	連絡先
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(＋・－)		TEL メール	
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(＋・－)		TEL メール	
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(＋・－)		TEL メール	
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(＋・－)		TEL メール	
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh(＋・－)		TEL メール	

電話がつながりにくい時は 災害用伝言サービス の利用を
～万が一大きな災害のときに連絡が取れなくても、安否情報を確かめ合うことができるサービスです～

災害用伝言ダイヤル171
電話を利用する声の伝言板です。
自分が伝言を録音するとき／相手の伝言を再生するとき
１７１にダイヤルする（ガイダンスが流れます）
1 を押す／2 を押す
被災者の方は ご自宅の電話番号を、被災地域以外の方は被災地の方の電話番号を 市外局番から 入力してください
1 # を押し録音する(30秒)／1 # を押すと再生が始まる
9 # を押す（終了）
固定電話や公衆電話・携帯電話・PHS・IP 電話が利用可能です

携帯電話各社の災害用伝言版
携帯電話などを利用して安否の登録・確認が可能です。大規模な災害が発生し被災地との連絡が困難になった場合に災害用伝言板が開設されます。
登録方法／確認方法
各社公式サイトのトップ画面 災害用伝言版 を選択
登録 を選択／確認 を選択
「無事です」などの状態の選択と、100文字以内のコメントを入力する／安否確認したい方の携帯電話の番号を入力して検索する
登録 を押して完了

災害情報の入手先

北海道防災ポータル
www.bousai-hokkaido.jp
北海道の防災に関する情報を発表しています。

気象庁
https://www.jma.go.jp
気象情報や防災情報を提供しています。

洞爺湖町HP
www.town.toyako.hokkaido.jp

洞爺湖町 防災情報ツイッター
https://twitter.com/Toyako_Bousai

津波から命を守るには… ためらわずに避難を！

津波から命を守るには、ためらわず避難をすることが大事です。そのためには、どこが安全でどこが危険か、またどこにどのように避難するのかを事前にハザードマップで確認し、津波に関する注意報・警報についての知識を身につけておくことが大切です。

迅速な避難をするために

ハザードマップで必ず確認しておきましょう

避難場所・避難経路 の確認を！

自宅、学校、職場から一番近くの避難先を確認し、どの経路で避難するか、その経路が安全であるか、危険な場所はないかをハザードマップで確認しておきましょう。
また津波到達時間が予測よりも早く襲来する場合もあるため、いち早く避難できる高台を確認しておくことも大切です。
隣近所などの身近に避難のお手伝いが必要な人が居ないかも確認し、日頃から、家族や地域で避難方法などについて話し合っておきましょう。

住んでいる地域の 津波の危険性 は？

津波ハザードマップに表記してある浸水区域の津波レベルは「最大クラス津波(L2津波)」で、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波を設定しています。洞爺湖町に襲来する全ての津波がハザードマップのとおりの範囲で浸水するわけではありませんが、自分が住んでいる地域がどの程度津波の影響を受けるのかを把握し、津波に対する心構えを持つようにしましょう。

避難情報に従いましょう

避難に関する情報を無視するのは、きわめて危険な行為です。必ず従いましょう。いつでもハザードマップに示された区域が浸水するとは限りません。津波警報が発表されたら、その時その時に合った避難が行えるように備えておきましょう。
また、役場が被災する可能性もあるため、避難情報が発令される前に津波が襲来する場合があります。
どんな状況でも情報を掴めるように携帯ラジオ等を常備しておきましょう。

！東日本大震災の津波避難行動の教訓

安全に避難するには**早期避難**が重要

車で避難した人の１／３が **渋滞に巻き込まれ**被害にあった

迅速に避難した人は、**津波襲来に対する意識が高い**

「家族を探す」「忘れ物をとりに自宅へ戻る」などの行動が**避難を妨げる**

避難の呼びかけや**率先避難**が避難をうながす要因になる

津波警報・注意報を知っておこう

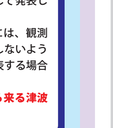
気象庁は、津波による災害の発生が予測される場合には、地震発生後約３分で **大津波警報**、**津波警報**、**津波注意報** を発表します。その後、「予想される津波の高さ」「津波の到達予想時刻」等の情報を発表します。

気象庁が発表する津波警報等の発表基準と高さの予想の区分

	発表基準	発表される津波の高さ：数値での発表（津波の高さ予想の区分）	発表される津波の高さ：巨大地震の場合の発表	想定される被害と取るべき行動
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで３ｍを超える場合	10m超（10m＜予想高さ）	巨大	木造住宅が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。**沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。**
		10m（5m＜予想高さ≦10m）		
		5m（3m＜予想高さ≦5m）		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで１ｍを超え、３ｍ以下の場合	3m（1m＜予想高さ≦3m）	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。**沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。**
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで０.２ｍ以上１ｍ以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合	1m（0.2m≦予想高さ≦1m）	（表記しない）	海の中では人は速い流れに巻き込まれます。また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。**海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。**

津波警報・注意報と避難のポイント

マグニチュード８を超えるような巨大地震の場合は、「巨大」という言葉を使った大津波警報で、非常事態であることを伝えます。
「巨大」「高い」という言葉での発表は非常事態です。東日本大震災のような津波が来ると思って、一刻も早く避難してください。



高い津波が来る前は、津波の高さを「観測中」として発表します。
大津波警報や津波警報が発表されているときには、観測された津波の高さを見て、これが最大だと誤解しないように、津波の高さを数値で表さずに「観測中」と発表する場合があります。
※津波は何度も繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が高くなることがあります。

震源が陸地に近いと津波警報・注意報が津波の襲来に間に合わないことがあります。**強い揺れや弱くても長い揺れを感じたときは、すぐに避難を開始しましょう。**

地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報（若干の海面変動）」を発表します。

津波は沿岸の地形などの影響により、局所的に予想より高くなる場合があります。**ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。**
津波は長い時間繰り返し襲ってきます。津波警報・注意報が解除されるまでは、避難を続けましょう。

非常持出品・非常備蓄品を備えよう

非常持出品　～非常時にまず最初に持ち出すもの

できるだけ身軽に避難できるようにするため、非常持出品は避難に必要な物品や貴重品に限りましょう。
非常持出品は、リュックサック等に入れて避難するときの通り道、玄関、寝室等に置いておきましょう。

ラジオ・照明器具
携帯ラジオ、懐中電灯、ヘッドライト、予備の電池、ライター・マッチなど

非常用食品
缶詰・カンパンなど火を通さずに食べられるもの、水など
※家族の人数に応じ、持出し可能な量を用意

貴重品
現金（小銭も準備）、通帳、免許証、健康保険証のコピー、携帯電話など

衣類、救急・衛生用品
下着、上着、タオル、軍手、雨具、スリッパ、マスク、消毒液、体温計、ばんそうこう、ウェットティッシュなど

各自必要なもの
メガネ、コンタクトレンズ、補聴器、入れ歯、普段飲んでいる薬、お薬手帳のコピーなど

移動に必要なもの
ハザードマップ、リュックサック、運動靴など

非常備蓄品　～災害復旧までの数日間（最低３日間）生活できるように備えておくもの

災害発生直後、飲料水や食料等は入手することが困難な状況が想定されます。またライフラインが途絶えた場合を想定し、数日間（最低３日間）を生活できるように各家庭で備えておきましょう。

飲料水・食料品

カップ麺・レトルトご飯・缶詰・レトルト食品・冷凍食品など
水は１人１日３ℓが目安

調理器具

カセットコンロ、ガスボンベ、やかん、なべ、おたまなど

洗面用具

水がなくても洗えるドライシャンプーなどもあるとよい

生活用水

断水になった時のために、風呂やポリ容器に貯水しておくのもよい

寒さ・暑さ対策

身体を温める：ポータブルストーブ（電池式・ガスボンベ式）、使い捨てカイロ、サバイバルシート、防寒着、手袋、帽子、毛布など
身体を冷やす：冷却シート・瞬間冷却材など

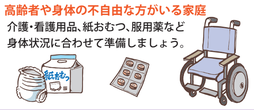
長期保存できる日用品や生活必需品

ティッシュペーパー、トイレットペーパー、ラップ、予備電池、予備ガスボンベなど、災害時に入手困難になる可能性があるため、長期保存できるものは多めに備えておく

！備えるときの注意点

家族構成に合わせて準備しましょう

高齢者や身体の不自由な方がいる家庭
介護・看護用品、紙おむつ、服用薬など身体状況に合わせて準備しましょう。



赤ちゃんがいる家庭
粉ミルク、液体ミルク、ほ乳びん、おむつやミネラルウォーターなど。お子さんの状況によっては離乳食やスプーンも準備しましょう。

避難先での感染症対策として できるだけ持参しましょう

マスク（使い捨てマスク）／体温計／アルコール消毒液／ウェットティッシュ／スリッパ

！停電に備えましょう

夜間、周りが見えない！
懐中電灯（LEDライト）、ランタンなどを必ず乾電池と一緒に備えましょう。ろうそくは火災を招くおそれがあるため使用は控えましょう。

家電が使えない！
家電製品の使えない状況を想定して調理手段を備えましょう。（「非常備蓄品」参照。）
また、テレビやパソコンが使えず情報収集ができなくなるため電池で動くラジオを備えましょう。

冷暖房器具が使えない！
冷暖房器具が使えない状態でも、暖（涼）をとる手段を備えましょう。（「非常備蓄品」参照）

携帯電話に充電できない！
乾電池式充電器（乾電池も一緒に準備）とモバイルバッテリーを備えておくと安心です。

断水した！
停電による給水ポンプの停止などによる断水に備えましょう。（飲料水の備蓄、常に風呂に水をはっておく、給水された水を入れるポリ容器や、水を使わない簡易使い捨てトイレを備えておく）

物が買えない！売っていない！
停電が起きてからでは、店に人が殺到し、商品が不足するため欲しいものが買えません。また停電が復旧しても物流が途絶えているため、食料品や日用品がしばらく買えない可能性も高いです。災害時に役立つものや普段から必要不可欠なものを事前に多めに備えておくことは非常に重要です。また、ガソリンも普段から残量が1/3ほどになったら給油するようにしておくと安心です。

停電復旧時の火災を防ぐため、ブレーカーを落とし、復旧後に戻すようにしましょう。